
短歌ごっこ'10.皐月

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌じつこ - 10・皐月

【著者名】

Z2859M

【あらすじ】 日常を詠んできます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切つてしまつのはなんかおこがしい

そんな訳で「短歌じつこ」です

パラパラと
降る大粒の
雨の音
ザアザアになる
午前0時に

雨の音

それだけ聞こえる

部屋の中

灯るは小さな

画面の光

ゆっくりと
時間をかけて
のぼつてくる
一年かけて
やつと一段

春が好き
春は嫌い
季節には
何の罪ない
些細な理由で

継続は

力と自ら

言い聞かせ

今日も励む

日課のコロコロ

とりたてて

出かけるあてない

土曜日に

行楽日和と

テレビは伝え

淋しいと

言う言葉では

白々し

悲しいそれも

どこか違うよ

それじゃない

これでもないと

思いあぐ心あらわす

言葉探し

ライナスが
毛布をいつも

持つように

携帯離せぬ

中毒患者

忘れたり

しないように

しつかりと

目に焼き付けた

景色リプレイ

例えば

桜のような

人でした

葉桜の道

あなたを思つ

空模様

気にして干した

あとの雨

なんだか勝負に

負けた気分

沢山の

聴きたい歌と

聴けぬ歌

酔いにまかせて

聴いてみようか

潔く

みつともなくも
なれなくて
宙ぶらりんで
ゆらゆらゆらり

風を受け

パタパタなびく
「冷やし麺
あります」の旗
似合う季節に

ただそこに
居てくれるだけで
いいんだよ
元気は勝手に
私がもうう

氣持ちはだけ
小さな画面に
向かつては
歌人にもなる
詩人にもなる

やつと来た
春は足早
駆け抜けて
扇風機の風
心地よい夜

播かずとも
咲きゆく小花
かわいいと
主張せず咲く
かわいさがあり

生きてたら
今どんな歌
歌声を

聴けたんだろと
聴く「負けないで」

飛び立つ日
あともう少し
揺れながら
その時を待つ
その風を待つ

あるならそのまま

キャンバスに

閉じ込めおきたい

夕暮れの赤

最後には

どの親指も

正直だ

指一本の

大きな主張

もくもくと
わきいでるくも

ふかふかと

乗っかり~~寝~~寝

したいフォルムで

片隅で

震える丸まる

うずくまる

そつと見回し

深く息吐く

田の光

受けてまばゆく

光る葉が

小さく揺れる
ガラスの向こう

携帯が

私を一番

知っている

書いては消して
消しては書いて

あついもの
冷たいものも
絡み合い
まとわりつくよ
生ぬるい夜

いま私
自分が嫌う
自分になつた
見え隠れする
イロンナワタシ

遠い日に
必ず会おう
つい昨日
会つてたような
笑顔同士で

することは

あるけども無い

五月晴れ

眺めて過ごす

手付かずの午後

もう月は

こんなとここまで

来てるのか

夜半に目覚め

見る月時計

思い立ち

変えた待ち受け

空景色

夕焼け朝焼け

どちらにも似て

うろついて

行つたり来たり

振り出しに

見えないゴール

片目で見つつ

手のひらに
捕まえた雪
消えて行き
根雪になれない
雪物語

強いとは
言えないほどの
風が吹き
吹き飛ばし行く
些細な何か

一番の

大事はどれも
かたち無い
大人だけが
知ってるホント

トゲトゲの
鉄条網の
優しさに
ふと氣が付いた
帰り道にて

大粒の
雨と唸る

風の音

肌寒ささえ

残る五月雨

12個の
キーから生まれる
文字たちの
無数の広がり
手のひらの中

鳥になり

ついばみたいと

思うよな

小さく実る

赤い実たわわ

浮かび来る

思いや景色

文字にして

言葉と遊ぶ

TANKAな毎日

田もある毎日
うたた寝が
出来る日があり
働く

是幸也

これですか
私は違う
気がします
誰にともなく
呟く戯言

気が付いた
時には押して
いたんだと
後から分かる
確かなスイッチ

あの曲は

途中までしか
聴けてない
懐かしい歌
懐かし過ぎて

街灯の
オレンジぼやけ
見えるのは
窓打つ雨の
せいだけなのか

渦を巻く
よつこ聞こえる

風の音
大粒の雨
流され降る夜

真夜中に
ひとりわ長く
鳴り響く
サイレンの音
遠吠えのよう

一瞬で

言葉はキミに
届くけど
気持ちはちゃんと
届いてるかな

▽の字を
残して進む
水鳥の
二つが交ざる
静かな水面

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2859m/>

短歌ごっこ'10.皐月

2010年10月14日20時10分発行